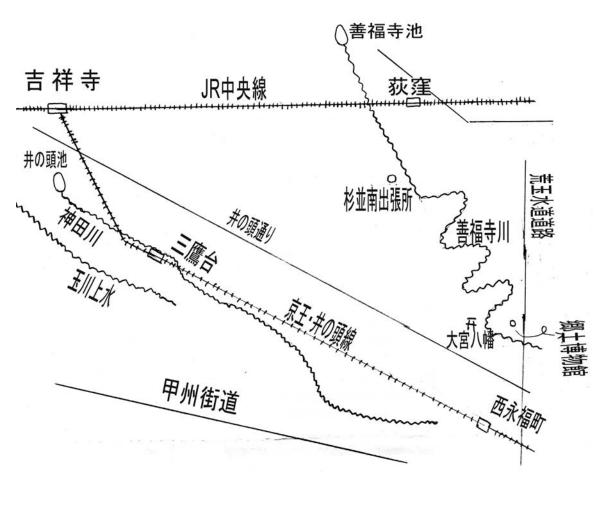
杉並南出張所界隈の今昔



似た藻草や、河骨(こうほね)のような丸葉の水草なども生えていた。』が川幅いっぱいで、昆布のように長っぽそい水草が流れにそよぎ、金魚藻にしれなかった。川堤は平らで田圃のなかに続く平凡な草堤だが、いつも水量澄んだ流れであった。清冽な感じであった。知らない者は川の水を飲むかも『井荻村(杉並区清水)へ引越しして来た当時、川南の善福寺川は綺麗に

です。 村に家を新築し、 断し、玉川上水にぶつかりこれをさかのぼりながら、 らしの吹く日は土ほこりが舞い上がり、 の町が大きく変わり、 ースにしました。 『小説でなく自伝風の随筆のつもりである』と、あとがきでことわっています。 今回の探訪は、 これは、 節です。 昭和五十七年に刊行された井伏鱒二の「荻窪風土記」の善福寺 井伏は昭和二年、 荻窪駅からスタートし、この善福寺川を下り、 早稲田の牛込から引っ越してきました。 郊外に人々が住み着くようになってきた頃です。 杉並南出張所 JR荻窪駅からそんなに遠くない当時の井荻 (西部第 遠くの空が橙色に見えたそうです 一管理事務所) 井の頭池に立ち寄るコ 関東大震災で東京 の管轄エリア 神田川を横 Щ

した。 秋のつるべ落しの候でもあり、途中一部、井の頭線を使い時間を短縮しま

松渓公園

られています。 井伏が描写した時よりもはるかに深く掘り下げれであったせいか、鴨も飛来していました。 ただ、も水が澄んでいるのにはびっくりしました。 晩と川幅もあり水量も思ったより多く、なによりと、 忍川上橋に出ます。 善福寺川です。 意外となる。 素に出ます。 善福寺川です。 意外といるのにはびっくりしました。 のの方にはいます。

公園があります。先にこちらを探訪することに。てきました。道路をはさんでこぢんまりとした住宅街の中を五分ほどで杉並南出張所が見え



▲ 松渓公園内 説明板

う。近くからは、古代人が集落を営んだ跡がいくつも発掘されています。福寺川に近い台地上のここは、当時から居住条件として優れていたのでしょされたため、発掘調査終了後保存のため埋め戻して公園にしたとのこと。善ここは当初区立のプールを建設する予定地でしたが、工事中に遺跡が発見

したが、

小魚は見当りませんで

のこと。スワール探索を兼ねて、 善福寺川の下流に二箇所設置してあると 場所を地図にマークしてもら 流改善対策としての小型スワールの設置 川沿いの良く整備された遊歩道をハイキ お聞きするとともに、 ングすることにしました。 さて、 木村尚武所長からこの界隈の 杉並南出張所を表敬訪問しまし 所の重点施策の合 いました。 善福寺 地 理 を

水源の善福寺池から杉並南出張所辺り 東南方向にほぼまっ

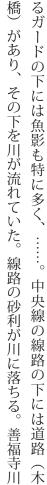
使われていました。現在、 ように工夫され、 流域の村々の生活用水としても 漑用水として利用され、 ほど大きく蛇行を繰り返し、 からは地形の高低に従って四 流下してきた善福寺川は、 水田だったところです。 て公開されている多くは、 緑地として人々の憩いの場と 鯉がゆうゆうと泳いではいま . 廣橋の先で神田川に合流. たものになっています。 の稚魚が隠れることができる 十キロメートルほどの かつては田や畑の 生態系に配慮 護岸も 公園 また、 短 ここ ま



▲ 杉並出張所

ようか。地元の小俣秀雄氏が書かれた「私 上荻窪村風土記」に、 護岸の隠れ家に潜んでいるのでし

央線と善福寺川の交差点、 () わ ゆ





▲ 曲がりくねる善福寺川

今の善福寺川の護岸と 善福寺川緑地公園



▲ . 昭和 45 年頃の善福寺川 成田西付近

のように清浄な水を保っ ていたのは、 あります。また、 ح

虫もわいたのだろう』

口

で吸込式の下水に貯められていた』 『その頃は川に下水など流す家は 軒もなく、井戸流しは小さな溝 善福等!! 現 社长の他

述があります。 の「荻窪風土記」に次のような記 ところで、冒頭で紹介した井伏

善福寺川

からであるといっています。

だということであった。それが嘘 もう一つは荻窪文化村の某家の溜 くにある学校の水洗便所だと言い う話を聞いた。一つは湧水池の近 に汚水を流している者がいるとい 井荻村に来た翌年、 川の水はま 善 福 寺川

かと思われるように、

だ綺麗に澄んでいたが、

釣に行くたんびに木屑やこわれた箒など塵芥が目に

の欠如を言外に表しているようにも読めます。 つくようになった』 今、この二つの文を並べてみると、旧住民の生活の知恵と新住民のマナー



▲ 荻窪のガード下

地が 視界

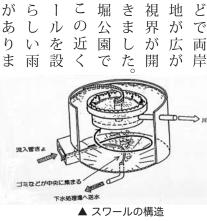
分ほどで

7 7 緑

田

堀

吐け スワ したら ح が 0) あ ル を設 り い 雨



置に



スワールから善福寺川へ



▲ スワールの設置場所

下ること三

福

寺

 \prod

装置の適用範囲は降雨強度が時間十ミリメートルまでだそうです。

れます。ここに設置されているのは直径三メートルの小型のものです。

ることが原理です。分離された固形物は、

しゃ集されて既設の下水管に送ら

この

接線方向より流入させることにより、

に渦流を発生させ、

固形物を沈降分離させ

えてもらいました。 ショートパスのつもりで住宅街を突っ切って行くことにしました。ところが 「杉並区立の郷土博物館がこの川のそばにある」ということを出張所で教 川沿いに行くと大きく蛇行していて遠回りになるので

善福寺川に出たところで、 させられたりと、 行き止まりの道があったり、学校の敷地で迂回 地図と首つぴきでやっとまた 博物館らしき建物が。

名主の と。たまたま、 母屋があります。平成五年に開館したとのこ として「杉並の地図をよむ」が開かれていました。 正門代わりに使われているのは、 家の長屋門、 区政施行七十周年記念の特別展 奥には移築された農家の 江戸時代の



2

な説明文がついていました。 杉並区の南端を走る甲州街道の 一番目の宿場・高井戸の再現模型に次のよう

ました。また、高井戸宿は半宿半農であったため、外便所を街道に面して建 「下高井戸宿と上高井戸宿の二つの宿場が半月交代でその勤めを果してい

を集め、農業に利用 らうことによって下肥 ていました。」 旅人に利用しても

荒玉水道道路

がついたのだそうです。 まで続く水道管が敷設 川)べりから荒川べり 路の下には、 てみたところ、 ります。博物館に聞 には荒玉水道道路とあ が走っています。 な真っ直ぐに伸びる道 ばを定規で引いたよう ていて、 土博物館のすぐそ 、多摩川 この名前 この道 地図 宝



▲ 荒玉水道道路

水道管を引くために用地買収を行い、敷設後道路として開放したとのことで 後日、 文京区本郷にある「東京都水道歴史館」で確認した結果

- こと 東京市近郊の十三町村が共同(荒玉水道町村組合)で造った水道である
- 大正十四年に組合を設立し、昭和三年に給水を開始したこと
- 長崎町、 並町、 3 としていたこと(旧名でいうと、豊多摩郡 今の中野区、 落合町)、 高田町、 北豊島郡 杉並区、 西巣鴨町 新宿区、豊島区、 (板橋町 巣鴨町、 (中野町、 板橋区及び北区方面を給水区域 滝野川町 野方町、 王子町、 和田堀町、 岩淵 杉 町
- こと 4 水源は多摩川の河水及び伏流水で、砧上浄水場でろ過してから送水した
- (5) 昭和七年、 東京市の水道事業に合併したこと

湧水を水源とする「井荻町水道」という町営の水道があり などがわかりました。さらに、 杉並区内にはこれとは別に、 (昭和七年給水開 善福寺池周辺の

始)、これも七年に東京市に 引き継がれたとのことです。

とは江戸時代から記述されて へば、 等数万株、 如くにて、 い岡が見えてきました。大宮 る形で戻ると、左手に小高 に候へ共、 います。新井白石の享保年間 八幡宮の森です。 (一七一六~三五)の書簡に 善福寺川を少しさかの 。長松数千株は雲を払ひ候 児孫の如くに候』 ……其の外に杉檜 是も数十丈のもの かの長松より見候 この森のこ



▲ 大宮遺跡

本あり、 うです。 東地方ではケヤキとともにポピュラーな照葉樹でこの土地に適した樹木だそ 現在では杉に代わってシラカシが参道の並木です。ちなみにシラカシは、 あ ります。 そのうち百六本が参道並木を形づくっていたそうです。ところが、 昭和十三年の調査でも、幹周囲二メートル以上の杉が百九十 関

左手にはボダイジュ、 信仰を集めていました。 神社の創建は十一 世紀にまでさかのぼり、 右手前にカヤ……、 山門の横には御神木の雌雄 樹木好きの方にはお奨めの鎮守の 江戸近郊有数の大社として広く 一対のイチョウ、 本殿の

神田川

駅までは電車で。 神社から井の頭通りを横切って井の頭線の西永福町駅に。 ここから三鷹台

する管が埋設されており、 ところで、 武蔵野市にある境浄水場からの浄水を和泉給水所 この井の頭通りも荒玉水道道路と同様、 通称、「水道道路」と呼ばれています。 真っ (杉並区) 直ぐな道路です。 まで送水

三鷹台駅のすぐ北を流れているのが神田川です。 水源から一キロメートル



▲神田川(三鷹台付近)

や妙正寺川を合流して、 れています。武蔵野の三大名池の一つである井の頭池を水源とし、 ほど下流ですが、すでに、流れは深いコンクリートの護岸の底に閉じ込めら 両国橋付近で隅田川に注いでいます。

取水し、 農業用水としても田畑をうるおしており、 では川岸で大根や菜っぱの泥を洗う光景が見られたそ 田上水) 白台下の関口 江戸時代から明治中期 神田、 していました。さらに、 (文京区) 日本橋地区に飲料水として給水 に設けた堰からこの川の水を (三十四年) にかけては、 その豊富な水量は 昭和初期ま 神 目



▲ 関□の堰

玉川上水

ものとは思われません。 然味豊な流れです。とても人工 掘りの土が顔をのぞかせている自 さるように木立が茂り、 分水は三十数カ所にのぼり、 域に分水できるように、 川の神田川よりも地形的に高い所を流れている人工の用水路です。 一鷹台駅から南にゆるやかな上り坂を行くと、 台地の分水嶺の馬の背を選んで開削されたのです。 所々に素 新田開発の重要な柱になりました。 0) 玉川上水に出ます。 川に覆い 両側の地

ました。 高低差約九十二メートルの流 多摩川の羽村の取水堰から四谷大 の増大に合わせて造られたもので 木戸までの約四十三キロメートル 坂、 完成は承応三年(一六五四)で 戸の町の人口増に伴う水需要 芝、 ,城をはじめ、 京橋方面に給水し 四谷 れで 7 麹 町

▲ 昭和 20 年頃の玉川上水

明治に入っても玉川 上 水は 東

善福寺川

治三 完成したことによ 設として使用さ 京 0) 三十日をもっ 三月まで淀橋浄水 三十二年 を置 代的 務めを終え 0 は昭 、まし 0) 市 若干の猶予期 重 原 中 改良水道が 四 . 和 四 た後、 水導水路 な 年 -万立方 月 明治 道



▲ 現在の玉川上水 (井の頭公園付近)

ました。 の役割を果してき かつては

メート

ル)として

満々とした水がとうとうと流れていました。

水道原水の導水路の一部として、また、小平監視所から浅間橋 上流処理場の高度処理水が流れています。 現在では、 杉並区)までの区間は、 羽村取水堰から小平監視所までの区間は、 昭和六十一年からの清流復活事業によって多摩 東村山浄水場までの 橋はな

速道路や公園、 もなりませんが)。さらに、これより下流の多くは暗渠化され、 で神田川に放流されています(日量二万立方メートル強で往時の十分の一 浅間橋で暗渠(六百メートル)に入った清流は、 遊歩道路などに活用されています。 井の頭線の高井戸駅 その上は高

が。 たそうですが、太平洋戦争中に、 を目的に杉がたくさん植えられてい とも今は地下水位が下がってしまっ たので、ポンプで汲み上げています の下に水源の湧水があります。 材資源として樹齢八十年の杉一万本 て、坂を下ると井の頭池です。高い崖 ある井の頭公園です。雑木林を抜け てきました。ここが神田川の水源池の 玉川上水をさかのぼりしばらく行 池の周囲には、 うっそうとした森が右手に見え もともと水源涵養 もっ



▲ 現在の弁天堂

蔵野 やってきました。 は江戸の町民がここまで参拝に 祀られていることから、 は典型的な雑木林が広がり、 描いています。 の頭の池弁財天の社雪の景」 多くなっています。 と。今ではサワラ、 います。 余が伐採供出させられたとの 0 春には花見の名所となって 面影を今に残しています 池の中の島に弁財 西側の台地上 安藤広重も ヒノキなどが サクラも多 かつて 武 を



▲ 安藤広重: 名所雪月花 井の頭の池弁財天の社雪の景

神田川が始まります。

トルほどは、

やや人工的

池の

末端

に 水門

があ

Ó

杉並南出張所界隈の今昔 下る、 る風情となっていま はありますが、 0 間を細い流 親しみの持て 自然 れが

地田

「荻窪風土記

井伏

「武蔵野夫人」 大岡

「私稿上荻窪村風 土

京府荒玉水道町村組 記」小俣秀雄 「荒玉水道抄誌 東

合 ぎなみ 0) 散 歩

杉並区教育委員

「ぶらり発見杉並_ 「杉並区史跡散歩」 東京消えた街角_ 学生社 杉並区公報課 加藤嶺夫

少し長くなりますが紹介して余話といたします。 まもない武蔵野の自然を舞台に繰りひろげられた人間模様を描いた、 今回の探訪は、 「武蔵野夫人」から、「湧水」と「雑木林」に触れている部分を 図らずも武蔵野の今昔を訪ねる水紀行になりました。 大岡 戦後

『どうやら「はけ」はすなわち、「峡(はけ)」にほかならず、 長作の家よ

草の間を交錯し、

の花が咲いていた。林は意外に深くあるかなきかの細径が、

斑に陽の落ちた

去年の落葉をためていた。』

勉は道のない草原を分けて進んだ。林中は冷たく、下草の間に白や黄の蘭科

淡い緑が低く連なっている中に樫や椚の大木が聳えるのが見える。

し残って、

く食い込んだ、 から道に流 水を溯って斜面深 りはむしろ、その つの窪地を指すも れ出る

次第に高まり ている。 るところから い崖となって尽き 水は窪地の奥が 武蔵 野 湧 0)

接した砂 せらぎを立てる流 うに湧き、 下水が這) 礫層 い 出 すぐせ いな地 るよ が露



▲ 神田川はここから始まる

▲ 井の頭公圏内湧水口

つまり赤土の層に 表面を蔽う口

れとなって落ちて

物を洗ったりなぞする。

行く。長作の家では流れが下の道を横切るところに小さな溜りを作り、

畠の

どこまでも入って行くと、舟で涯しない沖へ出るような感覚を味わったのを

『この辺りは一帯の雑木林で楢やヌルデが美しく紅葉していた。

その

勉は憶えている。林は戦争中の薪の不足と、附近に飛行場を新設する用材と

して切り払われたのである。雑木林はしかしそのうつろな草原の南の方に少